

上田小・仁王小 ～教育学部・学生の声～

学習支援ボランティアに参加して



昨年度の学習支援に参加した3名の学生に聞きました！

この活動をして、得た学びは、大きく二つあります。一つ目は、児童の成長は早く、それに応じた指導が常に必要となるということです。6月当初と12月の児童の姿は、まったくちがいます。児童の成長を認め、次の成長に繋げるような声掛けが大事になると学びました。二つ目は、一人一人の児童の立場に立ち、具体的に働きかけることがとても大事であるということです。児童のつまずきは一人一人ちがいます。小さなことでも、その児童の立場に立って考え、児童の思考の流れに沿って働きかけることで、安心して取り組むことができると学びました。

児童の様子や現状を知りたいという思いで参加した学習支援ボランティアでしたが、参加したことにより、現状を知るだけでなく、一人一人に合わせた支援の方法や課題を抱えた児童への対応を含め、児童と先生方の関わり方等まで考えるきっかけとなり、とても貴重な体験となりました。

【令和5年度卒業生、現在は小学校教諭】

教育実習の前に学校で子どもたちと関わることに少しでも慣れておきたいと思い、参加しました。主に子どもたちの宿題の丸付けや手が止まっている子どもへの支援を行いました。宿題が早く終わったときはノートに問題を書き、ゲーム感覚で一緒に勉強することもありました。たくさん子どもたちと関わるだけでなく、継続的に参加したことで、自分のことを覚えてくれたり、子どもたちと仲良くなれたりしたことが嬉しかったです。実習を終えてからも、放課後学習を通して配属だったクラスの子どもたちと会えたことも良かったです。

【令和5年度教育学部3年生】

実際に学習支援ボランティアの活動では、朝学習や放課後学習中の児童へのアドバイスや回答の丸付けなどをはじめ、行事や校外学習に同行して児童や先生方のお手伝いをすることもありました。このような活動を通して、「分かりやすく伝えるにはどうすればいいか」「一人一人の児童はどんなところでつまずいているのか」など、実際にやってみなければ分からないことを学び、経験することができたので、とてもよかったと思います。

【令和5年度教育学部2年生】

経験できた！

学ぶことができた！

生かしたい！